

UDC2017「データ部門」応募作品

イベントカレンダーからの「共通語彙基盤」対応イベントデータ生成

IMIハッカソン・イベント情報チーム（古崎晃司, Jinichi Ishizaki, 菅原奈緒美）

■ **概要** 自治体等がWebサイトに公開しているイベントカレンダーから自動生成した、共通語彙基盤（IMI）対応の「イベントデータ」です。API（SPARQLエンドポイント）を公開することで、**LINEを用いたチャットボット**および**Webサービス**による検索デモアプリも合わせて提供しています。

■ 解決すべき課題

イベント情報は、IT総合戦略室による**推奨データセット**にもあげられている利用価値が高いデータです。多くの自治体では**イベントカレンダー**が公開されていますが、複数カレンダーに分かれた情報の効率的利用には、データ整備のコストが必要です。

■ 本作品のアプローチと成果

すでに公開されている**複数のイベントカレンダー**から情報を自動収集し、**共通語彙基盤（IMI）に準拠した形式で公開**することで、

- ・データ整備の**追加コストをかけず**
- ・複数個所に分かれていた情報を**まとめて利用**できるようにし、
- ・**チャットボットからの検索デモシステム**の開発も行いました。



チャットボット

データ収集・公開の仕組み

